

「神はいないなどとは言えない」
使徒の働き 17章 22節～31節

はじめに

日本の多くの人が神を信じないのは、学校でダーウィンの進化論を習っているからといわれます。生物は、神によって造られたのではなく、進化して現在のようになった。だから、神はいない。このように信じているのです。

I 科学の発達と進化論に対する考え方の変化。

150年前にダーウィンの「種の起源」という本が出版されると、生物は、神によって造られたのではなく、進化したのだという考えが、世界中に広まり、神を信じる人々が少なくなりました。

しかし、それから150年の間に、科学は著しい進歩を遂げ、今まで分からなかったことが、次々に明らかになりました。そこで、今朝は、現代の科学者が、このことをどう考えているかを紹介します。いのちのことは社から出されたリー・ストロベルの本3冊のうち、「それでも神は実在するのか」と「宇宙は神が造ったのか」が参考になります。

その中に出てくるスティーブン・マイヤー博士のことは紹介します。

それは、科学が神の存在を示す6つの具体例。

1 ビックバン理論と一般相対性原理。

ビックバン理論というのは、この宇宙には始まりがあり、それは137億年前と考えられるという事。一般相対性原理は、アインシュタインが唱えた原理です。

この二つが示しているのは、「この宇宙には始まりがある」ということです。宇宙には始まりがなく、永遠に存在するとは、科学者は考えていないのです。始まりがあるなら、その原因もあるのです。何も無いところから何かが生まれるということはないのです。

1862年に微生物学者パスツールが実験で、生物の自然発生を完全に否定しました。無から有が生まれることはないのです。ですから、宇宙に始まりがあるということは、その原因となる神がいることになります。

無から有が生まれるとはないのですが、仮にあったとして、アミノ酸が合成されて一つの細胞が出来るとき、すべてのことがうまく行われたとして、一つの細胞が発生する確率は、10の4万乗分の1です。

2 人間原理的微調整。

宇宙の拡大率は、1兆の5乗分の1という単位まで微調整されています。この速度を遅くあるいは早くしただけでも、生物体を維持する宇宙は存在しないのです。そのほか、重力、磁力、その他の条件がちょっとでも狂えば、生命は存在できなくなるのです。

これほどまでに宇宙が微調整されていることは、偶然とはとうてい考えられず、微調整した方がいることを示しています。

3 生命の起源と存続に必要な情報源。

すべての生き物が誕生し、成長するための情報が生物の中にあることが分かってきました。それは、DNA とたんぱく分子に収められています。

DNA は、生命の設計図といわれますが、細胞から細胞へ、このDNAによって情報が伝わります。人間を例にとると、精子と卵子が合体した細胞の中にあるDNAによって、頭と体の各部が造られていくのです。

では、DNAは偶然出来たのか。それとも、神がそれをお造りになったのか。コンピューターは、偶然に出来たとはだれも考えません。頭のいい人が作ったのです。同じように、DNAを造った方がおられると考えるのが当然です。

4 生物分子機械のデザイン。

生物は、いろいろなパーツから出来ています。そして、そこには情報伝達回路、高性能モーターなど、生物として生きていくすべてのものが備わっていて、緊密な協調関係を保っています。このように精密機械にも勝る生物は、偶然に出来たのではなく、だれかによって造られたのではないのでしょうか。

5 カンブリヤ爆発。

これは、カンブリヤ期に、完璧な品種の大量発生があったという、考古学上の発見です。進化論は、自然界に急激な変化はないと主張しますが、ここに激変があったことが分かったのです。

6 人間の意識。

次は、人間の意識です。人間は、ものを考え、作り、ことばを話し、芸術や、宗教を持ちます。

これは、どうしてなのか。「人間は神のかたちに造られた」とい

うのが、一番じっくりいく説明ではないでしょうか。

ここまで、科学の発達によって、人間の考えがどう変わってきたかを見てきました。それは、無神論や進化論が不利になり、神を信じる方が正しいという結論になりそうです。

Ⅱ 聖書の神。

聖書は、「初めに神が天地を創造された」と言っていますが、聖書の神とはどのような神なのでしょう。

1 天地万物の創造者（24-26）。

聖書の神は、初めもなく、終わりもなく、永遠に存在される方であり、天地万物をお造りになりました。

適用：神は目に見えません。ですから、もし、私たちがそこにいて、創造を見ていたとしたら、すべてのものが自然に出来ていくように見えたでしょう。

適用：手でこしらえた宮に住まない。人の手によって仕えられる必要がない。人の技術や工夫で造った偶像と同じと考えてはいけない。

2 どこにでもおられる（27-28）。

目には見えないが、私たちは神の中に生き、動き、存在している。

適用：神から逃れることは出来ません。アダムとイブが罪を犯したとき、神の顔を避けて身を隠しましたが、神に見つかってしまいます。私たちは、どんなに神から逃げて、逃げ通すことは出来ないのです。

3 三位一体の神。

聖書の教える神は、父なる神、子なる神、聖霊なる神として、永遠に存在される方です。

神は、人間を「神のかたち」にお造りになりました。人間は、考え、造り、楽しみ、愛し、神を礼拝することが出来ます。

しかし、人間は神に背きました。なぜ、この世界に悪があり、苦しみがあうのかの答えがここにあります。

神は、人間を救おうとされました。それは神の民を選び、神のみ

こころを教えることでした。

そして、最後に、神の御子を救い主としてこの世に送って下さいました。それが、イエス・キリストです。キリストは、神の国を教えました。そして、人間の罪を贖うために十字架にかかり、人間の罪をその身に負って下さいました。神は、死んだキリストを三日目に復活させ、ご自身のもとにお歸しになりました。

神は、キリストを救い主として世に示し、今、信じる者を救ってくださるのです。

4 すべての人に悔い改めを命じておられる(30)。

神は、今、私たちに何を求めておいでになるのでしょうか。それは、「悔い改めて、イエス・キリストを信じること」です。神は、さばきの日も決め、イエス・キリストを復活させることによって、その確証をすべての人に示しました。

例話：スコットランドの教会で一人の女性がイエス様を信じました。彼女は、田舎の山村での暮らしがいやになり、家出をしました。それから9年間、好き勝手な生活をしましたが、どうにもならなくなり、この教会を訪ねたのです。

イエス様を信じた彼女は、「お母さんのところに帰り、自分が悪かったことを詫び、イエス様を信じたことを話そう」と決心しました。

懐かしい山道をたどり、家に着いたのは夜中でした。明かりはついていましたが、返事はありません。ドアはすっと開きました。見ると、懐かしいお母さんが眠っていました。「お母さん」と声を掛けると、母親はハット飛び起き、娘を見ると、「良く帰ってきたね」と優しく迎えてくれました。「お母さん。こんな山の中で、どうして戸締まりをしないの」と聞くと、母親はこう答えました。「この9年間。いつでもお前が帰ってこられるように、戸締まりはしたことなくないんだよ」。

適用：神は存在します。ですから、神を信じて、信じなくてもよいことにはなりません。神を信じ、神を礼拝することを神は求めてお出でになります。神を信じることは、特別なここではなく、人間として当然のことであり、神を信じない人は、間違っているのです。

結論

目には見えませんが、神様はいらっしゃいます。聖書は、神の救いを教えています。イエス・キリストを信じれば救われるのです。